

# 神奈川 横浜SF 英語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

問1はリスニング。短い文や対話を聞き、内容についての問いに答えるもの、対話の空所に適切な文を選ぶものなどです。問2は文法の基本的な知識が問われる適語選択問題。問3は動詞の形を変化させる適語補充の問題。問4は長文中の空所に適切な文を補充する問題。長文形式ではありますが、実際には各段落の要旨をつかむ問題です。問5は対話文の空所に適切な語句を補充する問題でした。やや難問ですが、代名詞に注目すれば解ける問題です。問6は3題からなる問題で、文中の複数の空所のうち、指定された一文をどこに入れるかの問題。問7はグラフのついた読解問題です。読解とはいえ、グラフの数字を読み取ることができれば全く難しくありません。問8は長文読解問題。架空の国3つの特徴や位置関係など複数の情報について問われる問題で、独自問題にはよく見られる形式です。本文の題名を選ぶ問題が神奈川では新しい傾向でした。問9は条件作文の問題。求められる文は決して難しいものではないので、落ち着いてスペルミスなく書くことが重要です。全体を通して、幅広い分野にわたり科学に関する内容の文章が多いのが特徴です。

## 入試までに準備しておくこと

問われている文法知識は中学の範囲から幅広く出題されているため、1・2年生からの復習が必要です。教科書よりやや難しいレベルの問題をたくさん解き、慣れておく必要があります。

空所補充や語順整序は、偏りなく文法の復習をすることで点を上げることができます。文補充の問題では、細かい内容に必要以上に時間を取られることがないようにしましょう。グラフの問題では、数字の読み取りで解ける問題だからこそ、問題の読み違いがないようケアレスミスに特に注意することが大切です。

長文読解の問題では、本文中の情報が多岐にわたるため、速く正確に読むことが大切です。日頃から長文読解の練習をし、慣れておきましょう。

条件作文は近年独自入試でますます出題が増えている分野です。文法の復習をきちんとするとともに、短文を書く練習や和文英訳の練習をしておきましょう。

リスニングは、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。過去の問題や英検3級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	10		
	記述	英問英答			
		和問和答			
小計		10	-	-	
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
		発音・アクセント			
小計		0	-	-	
文法	記述	適語(句)選択	6		
		適語(句)補充	6		
		語順整序			
	記号	部分英作			
		完全英作			
小計		12	-	-	
読解	記号	内容理解(含英問英答)			
		内容一致	4		
		段落・文整序	2		
		段落・文・節挿入	6		
		適語(句)・文選択			
		語順整序	1		
	記述	内容理解(指示語など)	11		
		語形変化			
		空所補充			
		和文英訳			
		部分英作			
		英問英答			
		条件英作	4		
和問和答					
小計		28	-	-	
合計点		50	-	-	

# 神奈川 横浜SF 国語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

大問 6 題の構成で、総小問数は 24 題でした。

問一は、漢字の読み書きです。21 年に話題になった裁判員制度に関する新聞の社説を引用し、傍線部の読み書きをするという出題形式でした。社説を引用しているため、新聞やテレビなどで裁判員制度に関心を持っていた場合は、かなり解答しやすかったでしょう。

問二は論理的文章の並べ替えの出題でした。私立高校ではよく出題される形式ですが、神奈川県の高立高校で出題されることは非常に珍しいでしょう。「たとえば」「そして」「すなわち」「なぜなら」「だから」といった接続語のはたらきを把握していれば正解できる問題でした。

問三は少年の成長を描いた小説文でした。選択問題の選択肢は心情を問う問題であっても、設定をつかめていれば正解できるものが多かったでしょう。

問四は科学に関する論説文で、筆者の独特の視点から語られています。先入観にとらわれずに本文の表現を正確に理解する必要があります。

問五は古文ですが、前半が現代語で示されているため、ストーリーを予測することが可能です。

問六に、文章を 150 字以内で要約する出題がありました。神奈川県の高立高校の後期選抜では珍しい形式です。字数の多い記述問題の練習をしておく必要があるでしょう。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字 語彙	漢字の読み取り		3				
	漢字の書き取り		5				
	四字熟語・語彙						
文法・表現							
並べ替え			2				
敬語							
韻文	俳句(鑑賞文含む)						
	短歌(鑑賞文含む)						
	詩(鑑賞文含む)						
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問		11				
	場面を問う設問						
	語句		2				
	本文との正誤問題		3				
論説	接続語の補充		3				
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問		3				
	表現		3				
本文との正誤問題			3				
古文	主語を問う設問						
	仮名づかい・語彙		2				
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問						
	本文の内容を問う設問		2	2			
本文との正誤問題			2				
条件作文							
本文要約					4		
合計			50				

共通問題で実施

平成21年度開校

横浜SFは22年度入試から独自問題を採用しています。

## 入試までに準備しておくこと

論理の展開方法をきちんと身に付けているかどうかを問われる出題傾向でした。接続語のはたらきをきちんと理解し、自分でも使いこなせるように、普段から論理的な文章を書く練習をしておくといよいでしょう。また、新聞を読み、現代では何が問題視されているのかを常に注意しておくように心がけましょう。幅広い知識が問われるので、慣用表現・語句の知識なども身につけておきましょう。

# 神奈川 横浜SF 数学 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

出題構成は、大問が5題で、他の独自問題出題校がすべて6題であるのに対し、1題少なくなっています。総小問数は21題で、こちらは独自問題出題校の中で最も多い問題数です。これは問1の独立小問集合が13問で、他の独自問題出題校よりも多いためです。

問題数だけでなく、傾向も他の独自問題出題校と異なっています。横浜SF以外の学校が、大問6題のうち3題を共通の問題としているのに対し、横浜SFはすべての問題が独自の問題です。

問1では(ア)から工夫が必要な計算を出題しています。これも他の独自問題出題校では見られない傾向です。(イ)以降、他校でも出題されるタイプの問題がしばらく続きますが、(ケ)ではこれまでの神奈川県の入試問題では出題がなかった正八面体の問題が出題されました。(シ)(ス)の場合の数・確率の問題も、他の独自問題出題校が1つ1つの事象を丁寧に検証する問題を出しているのに対し、横浜SFでは類題を経験していると有利な問題を出題しています。問2の関数も他校と異なり、(ア)から図形の性質を利用する問題が出題されました。あらかじめグラフが書かれていないことも他校には見られない特徴です。問3では証明が2題出題されました。他校では合同や相似を証明する問題が一般的ですが、横浜SFでは定理が成り立つ理由を証明させています。全文記述形式であるにもかかわらず、配点が低いことも特徴です。問4は円と直線に関する問題でした。解法はいくつか考えられますが、特別角に関する知識が豊富な受験生の方が有利となる問題でした。問5は空間図形からの出題でした。難易度はあまり高くなく、自分できちんと図を書くことが重要でした。

## 入試までに準備しておくこと

他の独自問題出題校と異なり、その場でじっくり考える力よりも、豊富な知識とそれを利用する力が重要視されています。対策として、神奈川県の独自入試問題のみでなく、難関国私立高校の問題に数多く触れておくことが望ましいです。工夫が必要な計算、特別角に注目する問題、様々な種類の立体図形の問題は、このような学校でよく出題されています。場合の数・確率の典型的な計算方法も覚えておきましょう。

また、証明問題の対策として、さまざまな定理や公式が成り立つ理由を知っておくことも必要です。ただし、配点は高くないので、書き終えるのに時間がかかるようであれば他の問題から解くようにしましょう。

領域	内容	配点
		22年度
数と式	数の性質・表現	
	数の計算	2
	式の計算	2
	平方根	2
	多項式の乗法 因数分解	
小計		6
方程式	1次方程式	
	連立方程式	
	2次方程式	2
	方程式の応用	2
	不等式・不等式の応用	
小計		4
関数	比例と反比例	
	1次関数	
	2次関数	
	変化の割合・変域	2
関数と図形	直線と曲線	
	関数と図形	6
小計		8
三角形・四角形	角度	
	作図	
	合同	
	相似	5
	三角形	5
円と平面図形	平行四辺形	2
	円周角の定理	
	円と弧・弦・接線	
	線分、線分比	3
	面積、面積比	5
空間図形	点の移動と図形	
	線分、線分比	
	面積、面積比	
	体積、体積比	6
	点の移動と図形	2
回転体、球		
小計		28
確率	場合の数	2
	確率	2
総合問題	数と式	
	図形	
その他		
小計		4
合計		50

横浜SFは22年度入試から独自問題を採用しています